

2016年(平成28年)

3月25日

No.388

毎月2回10日/25日発行

リサイクル通信

The Reuse Business Journal

発行所: 株式会社産業振興協会
本社: 〒104-0061 東京都中央区銀座6-11-1
TEL: 03(2621)3451 FAX: 03(2621)3441
発行人: 加藤光次郎
暮らしをよくする、専門メディア

今号の注目記事

- 1 新連載「ゼロから始める金講講座」
- 2 銀蔵・G・B・J提携へ
- 3 新連載「ゼロから始める金講講座」
- 4 数字で読み解く企業戦略
- 5 国境E.Cを日本語で気軽に

1 数字ととも存在
北欧の森の
イメージ店

2 銀蔵・G・B・J提携へ
エコリング
桑田一成社長

カンボジアに日系中古店続々

カンボジアに日系中古店続々

「国内店とそん色ない利益」

日系リユース店の進出が相次いでいる



カンボジアに進出するリユース企業が相次いでいる。経済成長率が高く、タイやミャンマーなど周辺国への定住者としても立派な一帯。古書店や総合リユースショップは国内とそん色ない利益を出しているようだ。

7月から毎週値下げ
プノンペンの街並み
は同市で、直営とFC
で合計8店舗を運営し
みの古書店の看板が目
立っている。黄色い着
装に帽子をかぶった若
性の顔が自印の、ドン
ドンタウンオンウェン
ストアだ。

運賃が安い
プア(若手県職員市)
は同市で、直営とFC
で合計8店舗を運営し
みの古書店の看板が目
立っている。黄色い着
装に帽子をかぶった若
性の顔が自印の、ドン
ドンタウンオンウェン
ストアだ。

カンボジアの平均月給は日本国内の1/10強と低水準だが、それでもよく売れおり、利益額で言えば国内店舗と比べてもさほど高本社長は話す。

「カンボジアは10年以上以前に本を出店するつもりだ」と語り、首都でドンドンストアが設立し、地方都市でも展開したいと意欲を語る。

低所得者向け古書店
古書店「キン・キン・グアミール」を運営するクロカワ・兵衛東高砂市は、2月5日、プノンペンに初出店を行った。

売りの場は1500坪で、日本から送った古書で月間350万前後の売上げを自標とする。副店長は、5・6ドル均一、店舗の立地は工場地帯で、低所得ワーカーを主な客層とする。想定は倍以上で売



1黄色い看板が目立つドンドンタウンオンウェンストアの外観 2ドンペンの店内。ブランドものなど品数の多い店もある 3ベストバリの総合リユース店の店内。お客様に寄っている 4高砂市クリエートの店舗。番号は「TOTOU」 5キングアミールを運営するクロカワの店舗した古書店の店内

リユース店をオープンしたのを皮切りに、3月には3店舗の出店も果たした。

販売はカンボジアに販路を持つことで、国内店舗の浸透も進出した。ベストバリの買取りを原則断らないが、集まってくる品物は、みで消化するのは不可能だった。そこで国内品を一定期間で回収し、カンボジアに送って販売するようになった。

しかしプノンペンの店舗はそれ以上の働きをしている。店舗賃料や人件費は高い。

国内店並みで推していると言

「カンボジアの利点」

- ・ GDP成長率約7%で発展している
- ・ 若者が品質やトレンドの知識を持っているが供給が少ない
- ・ 100%日本出身の会社設立が可能
- ・ 仏教信者が多く比較的に国民性
- ・ 店舗賃料や人件費を抑えられる
- ・ 古書の輸出を行うことができる
- ・ 日系リユース店が参入している

古書や総合リユースの事業家にとって、ASEANはこれら開拓の余地ある魅力的なマーケットだ。カンボジアは、そのための拠点としても良い国だと評す。

前にカンボジアで日本のリユース品提供をはじめた。同社は現在、直営3店舗、共同経営3店舗の合計6店舗を展開している。

同社の佐久間社長は、日系リユース店が多数進出してきて、競争が激しくなっているのだと語る。当初は日本の売れ残りを出せば売れたが、今ではグレードを上げなければならなくなると話す。カンボジアでは、日系の同業者は既にぞから手を挙げており、周辺諸国に数店舗出店している。

カンボジア進出の代表的な企業

ドンドンアップ	古書店 8店
東都クリエート	総合店 6店
クロカワ	古書店 1店
ジェイ・ポート	総合店 1店
おりがどうサービス	子会社設立

カンボジアを選んだのは、経済成長率が高かったため、また、古書はその国の法律で輸入を認められていない国も少なくない。カンボジアはそれが許さ

「カンボジアの利点」

- ・ GDP成長率約7%で発展している
- ・ 若者が品質やトレンドの知識を持っているが供給が少ない
- ・ 100%日本出身の会社設立が可能
- ・ 仏教信者が多く比較的に国民性
- ・ 店舗賃料や人件費を抑えられる
- ・ 古書の輸出を行うことができる
- ・ 日系リユース店が参入している

古書や総合リユースの事業家にとって、ASEANはこれら開拓の余地ある魅力的なマーケットだ。カンボジアは、そのための拠点としても良い国だと評す。